

マックス株式会社 2025 年3月期 第3四半期決算説明会 質疑応答録

この質疑応答録は、2025 年 1 月 31 日（金）に開催したアナリスト、ファンドマネージャ向け決算説明会電話会議にて、ご参加の皆さまからいただいた質問とその回答の概要です。

■インダストリアル機器部門について

〔質問 1〕

北米における鉄筋結束機の販売状況について、第 2 四半期は新製品と旧製品の入れ替えによって、機械の販売が停滞したと伺っていましたが、第 3 四半期は新製品への切り替えがほぼ完了したという認識でよいでしょうか。

〔回答 1〕

2024 年の夏ごろまでは新製品と旧製品を併売していましたが、第 3 四半期は新製品の販売に切り替わっています。

〔質問 2〕

北米における鉄筋結束機の機械の第 3 四半期（3 ヶ月間）実績は前年同期比で横ばいとなっていますが、鉄筋結束機の新製品効果を教えてください。

〔回答 2〕

2024 年 5 月発売の鉄筋結束機「RB443T」は、結束スピードが速くなった部分を評価されています。ツインタイア機構を初めて搭載し、製品性能が飛躍的に向上した 2017 年の「RB441T」発売時ほどの大きな効果はありませんが、機械の拡販は堅調であると認識しています。

〔質問 3〕

「World of Concrete（以下、WOC）」の出展費用がコスト面に与える影響を教えてください。また、今回の出展費用は期首に計画していたものか教えてください。

〔回答 3〕

今回の WOC では、弊社の米国現地法人に加え、ブランド力の強化等を目的として本社からもブースの出展を行い、研究開発中の自律移動結束ロボットや設備向け結束端末、北米で 2025 年春に発売予定の「コネクティッド ツインタイア」などを紹介し、一定程度の費用を投下しています。WOC は 2025 年 1 月開催であるため、第 4 四半期の費用として計上します。また、費用は 2025 年 3 月期の期首時点で計画していたものとなります。

〔質問 4〕

2025 年 3 月期のコンクリート構造物向け工具の売上計画は 320 億円から修正はありませんか。

〔回答 4〕

計画自体は変更していませんが、第 3 四半期時点での進捗率が 83% であるため、実績ベースでは計画を上回ることを想定しています。したがって、第 4 四半期に実績が落ち込むというわけではなく、堅調に推移することを見込んでいます。

〔質問 5〕

北米における鉄筋結束機の消耗品の第 3 四半期（3 ヶ月間）の販売数量が前年同期比で 30%増加している要因の一つとして、関税を警戒しての在庫確保の動きはありましたか。

〔回答 5〕

通常の販売活動による実績であると捉えています。

〔質問 6〕

欧州における鉄筋結束機の機械・消耗品の第 3 四半期（3 ヶ月間）の販売数量について、前年同期比で大幅に増加している要因を教えてください。

〔回答 6〕

弊社の主力市場であるドイツでの販売数量が回復していること、市況が堅調な南欧・東欧への拡販活動を強化したことにより、前年超えの水準となりました。

〔質問 7〕

WOCに出展した自律移動結束ロボット、設備向け結束端末の具体的な発売時期を教えてください。

〔回答 7〕

屋外作業を想定した耐候性、耐久性などクリアしなければならない課題があるため、具体的な発売時期は未定です。

〔質問 8〕

今後発売予定である鉄筋結束機の特大口径機の市場規模を教えてください。

〔回答 8〕

特大口径機は、近い将来に日・欧・米で発売予定です。特大口径機を導入することによって、鉄筋結束作業の大部分を弊社の機械でカバーできるようになると捉えています。市場規模に関しては、具体的な数字は控えさせていただきますが、ニーズがあることは明確ですので、鉄筋結束機事業のさらなる成長に寄与するものと考えています。

■全社状況について

〔質問 9〕

事業ポートフォリオの適正化に関する考え方を教えてください。

〔回答 9〕

事業ポートフォリオの適正化では、各事業の中でポートフォリオを適正化し収益性を高めていくことも実施しています。たとえば、国内オフィス事業では、ペーパーレス化による市場縮小が見込まれる文具事業から文字表示事業へ活動をシフトすることで、収益性の維持・向上を図っています。国内機工品事業では、鉄筋結束機事業への工数投入を強化するとともに、収益性の低い製品群の縮減等を行い、収益性のさらなる改善を進めています。弊社全体の方向性としては、鉄筋結束機事業にリソースを重点的に投入しながら、その他の事業に関しては適正な固定費管理を行う考えです。

〔質問 1 0〕

第 4 四半期は、実行が遅れている分も含め、販管費をやや大きく計画しているとのことでしたが、具体的な用途を教えてください。

〔回答 1 0〕

WOCに関連する費用を第 4 四半期の実績として計上することに加えて、DXやブランドにかかわる投資を予定しています。

〔質問 1 1〕

WOCに関連する費用とDXなどその他の投資では、どちらの費用が大きいですか。

〔回答 1 1〕

DXをはじめとするその他の投資の方が費用としては大きいです。

〔質問 1 2〕

株式の売買代金が低いことが課題の一つであったと思いますが、昨年を実施した株式の売出し後、売買代金が約 2 倍になっており、投資家目線では非常に良いことだと思いました。今後の株主構成を含めた資本政策の考え方を教えてください。

〔回答 1 2〕

現時点で具体的に決定しているものではありませんが、株主構成の在り方などについては、中長期的な課題だと認識しています。今後も企業価値向上に資する施策を適時適切に検討・実行していきたいと考えています。

〔質問 1 3〕

2024 年 4 月に発表した中期経営計画（2025～2027 年 3 月期）は、為替レートの乖離を含め、現状のままだとやや保守的な印象を受けます。今後、中期経営計画の見直しを適宜実施しますか。

〔回答 1 3〕

ご指摘いただいたとおり、中期経営計画策定時に設定した為替レートと足元の為替レートが異なってきています。現在、為替の前提だけでなく、事業活動の状況等も含めて、来期ならびに再来期の計画を議論しています。議論の内容を踏まえて、中期経営計画の見直しを進めていきたいと考えています。

〔質問 1 4〕

短期的な業績や計画にとどまらず、特に鉄筋結束機の各地域の将来的な展望について、より長期的な目線で掲載してほしい。

〔回答 1 4〕

貴重なご意見として承ります。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が 2025 年 1 月 31 日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。